

平成28年3月4日小方地域まちづくり対策特別委員会 議事録
11時10分 開会

○細川委員長 おはようございます。定足数に達しておりますので、ただいまより小方地域まちづくり対策特別委員会を開会いたします。

市長お見えになっておりますので、何かありましたらお願いします。市長。

○入山市長 小方地域まちづくり対策特別委員会開催ありがとうございます。よろしくお願ひ申し上げます。

○細川委員長 それでは早速日程に入ってまいります。

日程1、平成27年陳情第2号、小方小学校移転跡地に「公園」設置陳情を議題といたします。

本件は昨年12月9日の審査からの継続審査になっております。既に執行部からは御意見をいただいておりますが、新たにつけ加えることがございましたらお願いいたします。

建設部長。

○大和建設部長 この件に関しましては、現在、補正提案させていただいております小方地区まちづくり基本構想策定事業2,400万円の中であわせて検討させていただく予定でございますので、よろしくお願ひいたします。

○細川委員長 では、委員の皆様におかれまして執行部に確認したいことがございますでしょうか。ありませんか。

賀屋委員。

○賀屋委員 配られてる陳情文書表のこの中に、下段のほうに既に採択されている大議第392号という分の中身をちょっともう一回おさらいの意味でどういうふうにして採択をされたのかというのをお聞きしたいんですが。

○細川委員長 事務局、資料ありますか。

○豊原議会事務局主幹兼庶務係長 恐らく、前回お配りしたんじゃないかと思うんですけども、大議第394号、平成12年12月18日付で、岡田亮吾議長から岩国大竹道路対策地元協議会末永栄殿宛、これでよろしいんでないかと思うんですけども。

○細川委員長 一応読んでみて。

○豊原議会事務局主幹兼庶務係長 では、陳情審査の結果についてということで文書読ませさせていただきます。

陳情審査の結果について、先般貴殿から提出された陳情は12月15日の第7回本会議定例会において、下記のとおり議決したので通知いたします。記、件名、岩国大竹道路建設計画に対する陳情。審査の結果、採択ということになっております。裏面のほうで、結構長い文書になっておりますので、陳情の要旨だけでよろしいですかね、委員長。

陳情文書表として、

受付番号 第355号

受付年月日 平成12年11月20日

陳情者 岩国大竹道路対策地元協議会 会長 末永栄氏 外19名。

件名 岩国大竹道路建設計画に対する陳情
となっております。

1 番の陳情の要旨だけを朗読させていただきます。

陳情の要旨

岩国大竹道路建設計画は、平成10年12月初旬に突然発表され、説明を受けました。この計画は地元住民にとっては、古来より営々として築きあげてきたこのふるさと、小方、御園の地域を縦断して150件もの家屋の立ち退きが予定されるという言葉にはあらわせない痛み、衝撃が我々の胸中を襲い、今もなお、苦悩と不安の日々を送っております。この道路が計画どおりに実施されれば、移転対象者はもとより周辺地域に居住する住民においても生活環境が大きく変化するものと不安に感じております。国道2号線の渋滞対策で、道路建設が必要であることはわかるものの、環境対策、移転先等についても万全な対策がとれるのか、いろいろ問題点があります。つきましては、下記の8項目について陳情いたしますので、この趣旨を十分御了解いただき、地元住民が安心して生活できるよう格段の御配慮をいただきますようお願いいたします。

1、岩国大竹道路の供用が有料道路では利用者が限られ、渋滞緩和にほとんど効果が期待できない。したがって、無料化を前提とした取り組みを要望する。

2、国道2号線との合流部から玖波方面への渋滞が発生すると考えられるので、効果的な対策を要望する。

3、立ち退き者に対しては、高齢者や体が不自由な方々でも安心して生活できる代がえ地の確保と早急の発表を望む。

4、ルート周辺の住民に対しては、日照、騒音、振動、排気ガス、塵埃ですかね、などに対して万全の対策をとり、景観の保持、生活の利便性、生活環境の保全には十分に配慮すること。

5、ルート周辺にある古い生活文化財に対しては、効果的な保存対策を望む。

6、道路建設により、町の形態が大きく変わり、地域住民にとっては生活しにくい、死んだ町となる恐れが十分にあるので、地域振興となる新しいまちづくりとの整合性を視野に入れ、JR小方駅の設置を強く求める。

7、立ち退き対象地区及び、非対象地区の商店を含めて道路完成後の影響は図りしれないものがある。特に、零細商店にとっては死活問題であるため、小方駅前に商店街の開発及び、周辺商店に対する救済措置を強く要望する。

8、小方小学校は、現在、国道2号線とJRに挟まれ、騒音、振動、排気ガスなどに悩まされているが、この岩国大竹道路が校舎の直近を通ると、現在にも増して劣悪な教育環境となるのは明らかであり、児童教育に適した環境のよい場所への移転を強く要望する。

以上でございます。

○細川委員長 ありがとうございます。賀屋委員。

○賀屋委員 今の8項目の陳情の中身から読み取ると、いわゆる環境対策と言いますか、住環境の保全という意味で、公園という陳情が出たというふうに解釈をすればいいのではないかと思います。直接8項目の中に、学校の移転の後に、公園をとこの時点では明確

なそういう中身が書いておられませんので、先ほどの中身から判断すると4番目の住環境の保全という中に、公園の必要性を当時陳情をされたのではないかと思いますけども。そういうことで理解をしていいんでしょうかね。もう一回。

○細川委員長 というふうに理解をされるということですね。

他にございませんか。日域委員。

○日域委員 今の陳情ですよ、文書聞かせてもらって、あそこまで何もかも全部書いてしまったら、何も書いてないと等しいくらいの気持ちができるんですけどもね。結局、法的な開発なり何なりするときの規制がいっぱいありますよね。そういう意味で、ある意味、法律を守ったら基本的にはあれは守られるのではないかなという気もいたします。

陳情の仕方はともかく、ただ公園をつくるということも町を開発すれば一定の公園は義務づけられていたりしますし、よりよい町をつくらうと思えば義務づけられた面積よりは少しは大きいものがあつたほうがいいかもしれませんし。そういう中で、つくっていただけたいんじゃないかと、私思うんですけど。

ただ、一つ気になるのは、今回の3月の議会の補正予算の中にさっきの数字がありましたよね。時々、ああいうことがありますけども、何をするかっていうのはようわからんけど、いろんな予算の関係、補助の関係、交付金関係とかがあつて、一応枠だけはとつとる。そして予算だけは通しておかんと次の手が打てないんですよ。それはわかるんですけども、じゃあそういうプロセスを経た場合に、執行部のほうに中身がですよ、白紙委任で議会が承認したと思つてほしくないんですよ。

本来であれば、これとこれをやるから予算くれつて言つて、それを議会が通したら初めて中身のある予算ですけども。予算を獲得するために、詳細はわからんけども、とにかく予算があるんだつて、それはその段階でわかります。その範囲でわかりますけども、具体的に、例えば発注するときにはですよ、何もないのにやってくれつてできませんよね。だから、予算は通ると思つますし、通すべきだと思つますが、具体的に絵を描くことをですよ、どういう条件をつけて業者に出すかというその条件を決めた段階で、ぜひ議会を通してほしい、そう思つます。予算があるけ、何でもしてええつて言うんだつたら、私は地方自治体として失格だと思つます。いかがでしょう。

○細川委員長 詳細が決まりましたら議会にも報告いただけるかどうかということと、もう1点、公園の設置についての法的根拠のようなものがあるかという2点あつたと思つますが。建設部長。

○大和建设部長 まず、公園については恐らく開発の関係で面積の3%とか、確保しなさいというのがあると思つます。それと、今の議会への報告ですけども、議会と言いますか、委員会、協議会程度、ちょっと時間的なものがありますので、極力早く発注したいというのもありますので、できましたら、委員会、協議会のほうでの報告で勘弁いただければとは思つておりますが。一応何をやるかというのは、ある程度もう昨年度の議会の案とか、市内部での案とかもありますので、イメージは踏まえての今回、予算と思つております。以上です。

○細川委員長 日域委員。

○日域委員 じゃあ、あといきますから、今あるやつを教えてください。お願いします。最終決定じゃなくても、今あるので結構ですから、私見てみたいと思いますから、よろしくお願ひいたします。

○細川委員長 議員活動として、お願ひいたします。

特別委員会としては、小方地区のまちづくり構想に関しては、テーマとして取り組んでおりますので、今後、報告できるタイミングでまた、委員会への御報告をお願ひしたいと思っておりますので、また協議をした上でタイミングを図りたいと思っております。執行部に関しては、また御協力をお願ひいたします。委員の皆様もそういうことで、御理解いただければと思いますので、よろしくお願ひします。

他にございませんか。

無いようですので、本件についての取り扱いについて、委員の皆様のお意見を求めます。継続審査などの御意見もございましたら、この場で述べていただきたいと思ひます。賛成、反対の討論はその後に行いたいと思ひますので、ただいまの場では、取り扱いについての御意見をお願ひいたします。ありませんか。賀屋委員。

○賀屋委員 先ほど、執行部のほうからも説明ありましたし、前回3月補正の前段で生活環境委員会のほうにも、協議会が持たれた補正予算の件でございますけども、その中の説明で、先ほど、部長さんも言われましたように、小方地区のまちづくりの基本構想の策定業務がメインにあるんだということでございます。

それは、小学校跡地の土地活用を含めた、どういうまちづくりにするのかという基本的な構想図をつくっていくという。もちろん駅も含めて、どういう位置にどの程度の規模で、道路をどういうふうに配置をして、ということ全体をまとめたまちづくりとしての特に、小方小中学校の跡地の活用をメインに、そのまちづくりの構想図をつくっていくということが、この補正予算に上げられたということでございますので。その部分で、いわゆる制度の高いすり合わせをしながら、構想図ができていく過程の中で、今、陳情にありますような公園を今の段階で採択をしても、じゃあどこにその公園をどういう規模で、いつつくるのかということは、全く基本構想ができ上がってこない、それと整合せざるを得ないということになってきますので。

もう既に開発構想の中に、さっき話もありましたように、開発をするということはその土地の中で3%なりの公園の確保というのも義務づけられますので、そういう中での公園の決定位置というのが明確になってこようかと思ひます。そこを待っていただきながら、公園整備というこの陳情に則してくるのではないかというふうに思ひますので、具体的なその構想が今からの作業でございますので、今の時点で、この陳情をすぐに採択をするということはちょっとまだ早いのかなというふうに思ひます。といった意味で、継続審査としたいというふうに思ひます。以上です。

○細川委員長 ただいま、継続審査の意見がございました。継続審査についての採決を行います。

本件を閉会中の継続審査とすることに賛成の委員の皆様のご起立を求めます。

[賛成者起立]

○細川委員長 起立多数と認めます。よって、閉会中の継続審査とすべきものと決しました。

委員の皆様にお願いがございます。ただいまの議案、継続審査になりました。12月以降、審査に必要な資料などもそろえさせております。次回また、審査になると思いますので、前回、前々回、今回出た資料などはお持ちいただければ時間の短縮になると思いますので、御協力をお願いします。また、審査に必要と思われる資料など言っていただければ、可能な範囲でそろえさせようと思っておりますので、あらかじめ委員長のほうまでお伝えいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、日程2、和木駅に関する行政視察報告についてを議題といたします。ここから先は、先日、和木町にまいりまして、和木駅設置に対する調査をしてまいりました。その検証になりますので、執行部の皆様には特段どうしても残っていただければならない事情もございませんので、退席していただいてもよろしいかと思っております。お疲れさまでした。

それでは、皆様のお手元に2月23日に行きました和木町視察研修についての報告を、和田副委員長にまとめていただいておりますが、それと後、前回行ったときの調査項目についてのペーパーをお配りしてありますが、ございますでしょうか。

それでは、日程第2については、和木駅に関する行政視察報告についてということですが、調査結果の共有化ということでやってまいりたいと思っております。

では、副委員長より報告をお願いいたします。副委員長。

○和田委員 2月23日に和木町の調査に、小方まちづくり対策特別委員会全員が参加いたしまして、和木町側、中磯議長を初め4名とで、和木駅ができるまでの勉強会をさせていただきました。その中で、今ここに報告書にありますように、和木町が平成3年に駅設置同盟が発足、認可できましてから約20年間、駅が開業までに17年余り年月がかかっております。特にその中で、JRとの交渉では、平成8年に新駅の要望をしてから協定書締結まで10年余りと大変長い時間がかかっております。和木町の方といろいろ話の中で、大変問題点が、新駅つくるまでにあることがわかりました。

一応問題点ですがね、請願新駅と言いまして、地域が新しく駅をつくるという駅に対しては、100%地元負担でつくってくれと言われております。それと、1日の乗降客が一応2,500人以上で、赤字駅はJRはつくらないという話でございます。その他、駅周辺のインフラ、道路設備とかいうのは全部これも地元負担でやってください。新駅ができてあと維持管理、電気代とか駅を管理する人もこれも地元負担でやってくださいということです。

それで、和木町は新駅をつくるまでにいろいろ自治会と協議いたしまして、地元の企業からとか、町内の1軒あたり一口5,000円、二口以上の寄附をお願いしますということで、一応、最低今の町民から5,000万以上の寄附を集めております。それで、駅をつくったそうです。

それともう一つは、和木町の係りの人が言われることは、この新駅をつくるには専門的にプロデューサーかディレクターが必要で、専門的に交渉していかなければ駅をつくるのは難しいと言われております。そういう話で、一応その小方地域まちづくりはね、新駅を

つくることは大変重要な議案だと思いますので、ぜひつくっていきたいんですが、それまでにいろいろクリアしないといけないことがたくさんあると思いますので、皆さんどうか協議のほどよろしくお願いいたします。御報告を終わります。

○細川委員長 副委員長ありがとうございました。

それでは、ただいまの報告の中で、自分はちょっと違う印象を持たれたということであれば、それでも結構でございますし、そのほか調査してきたことが、これが大竹市のこれからの小方新駅をつくるのに参考になるであろうというお気づきがありましたら、調査項目をお配りしてありますので、ここの部分ではこういうふう感じた。ここにはないけれどもこういうことが大事だと思うということを、皆様から御意見をいただきたいと思います。

済みません、その前に、先ほど私、協議会でいった報告と言いましたが、特別委員会で。そこは、訂正をお願いいたします。

それでは、皆様、御意見をお願いいたします。

御意見ありませんか。日域委員。

○日域委員 JRの駅を請願駅をつくるというのは、今、はやりですからね。日本中でやっていることだとは思いますが。なかなかルール上はおもしろい部分があるんだなという気がいたします。

昔、大昔話ですけども、大竹小学校のPTA会長をしたことがあります。たまたまそのときに、県大会があったんですね、大竹で。おまえも何か言えやって言われて、何か言おうと思って私も発表しました。そのとき何を発表したかという、大竹小学校のプールの維持費なんですね。大竹小学校がプールを、Pの連中が行ってペンキ塗るんですけども、ペンキ代はPTAの予算で出すわけですよ。PTAは大竹市から当時10万かな、補助金もらっていました。でも、地方財政法見ると、保護者が学校を直すのはルール違反なんですね。そのことを発表した記憶があります。やっぱりね、物事には流れがあって、うちの学校直すために、公立学校ですからね。公立の義務教育の学校ですから、それは市が当然、大竹市であれば市が出すべきであって、それを保護者に払えっていうのはまずいわけですね。法律ってよくできているものであって、それに絡めて、そういう問題がやっぱり駅の問題もあるんだろうなという気がいたします。

とは言いながら、そう言っておれないんで、いろんなことをやってるんだろうと思いますが、そういう話が和木の方からも出ましたよね。それはやっぱりきちんと理解しておく必要があるというふうに思ってます。それ以外は、和木と大竹の違いは、和木駅は和木町に駅がないわけですから。駅のない町っていうのはすごく存在感が低いですからね。ああ、あの駅か、あの町かってなるわけですね。ですから、和木駅と小方駅は、小方の方にとっては小方駅がすごい大事ですけども、大竹全体から見たときに、やっぱり盛り上がりとか何とかですね。いろんなその辺のことも気を配っていかないと、難しい面があるんじゃないかなということを感じましたけど。

今の学校の跡地もありますし、さっき言いましたけど、行政のほうで、執行部のほうで適当にコンサル頼んでやったら、これ駅も何も全部ぼしゃると思います。上手にですね、大竹市の人間が決めるんじゃないなくて、広く知恵を集めてですよ、集めた知恵を、またどの

知恵を選ぶかは、もちろん大竹市民が決めるわけですが、上手にやって、他に誇れるようなプロセスを経て考えたらいい町ができると思います。それを変な人間が横やりを入れたりすると、大失敗すると思います。そこだけは、肝に銘じておきたいと思います。以上です。

○細川委員長 新駅設置に向けての法的課題を、しっかりと委員会としても知っていく必要があるんじゃないかという点。二点目は、小方は大竹市の中の三つ目の駅になるので、地域の盛り上がりをつくるというのが非常に難しいのではないかという印象を受けたと。三つ目は、小方のまちづくり構想についての御意見でした。

ほかに。感想でも結構です。末広委員。

○末広委員 先日は大変貴重な時間を過ごさせていただきました。大竹の小方駅ができるかどうかというのはこの委員会だけで、つくって言ったってできるっていうんじゃないってことは、実感しましたですけども。その当時の御苦勞をお聞きする中で、当時の町長が強烈なリーダーシップを発揮されたんだなということが一つ。

それに職員の方がその命に基づき、また、町民の希望を背中に背負って大変な御苦勞をされたというのを実感しました。きょう、小方小学校の跡地における公園の陳情について継続というのをさせていただいたんですが、先ほど事務局の方が読んでいただいた、150戸の立ち退きを余儀なくされた皆さんを、今現在、小方のまちづくりの再興を願ってらっしゃる方々の情念があれば、私は、小方駅はできていくと信じています。

あの当時のトップのリーダーシップだけでは、大竹の町との人口構成の違いもありますし、本来であれば、装束駅が和木に少しかかるかなぐらいの最初の構想があったと。しかしながら、岩国のその当時の政治トップの判断が、新駅の構想を断念された経緯があって、それが和木駅の構想に集約してエネルギーが1本になったと。そのタイミングに、先ほどの岩国基地対策協議会の場がありましたけども、岩国基地の艦載機移設という大きなタイミング、ある意味じゃラッキーということもあったし、もう一つ大きな彼らの努力が実を結んだ大きな要因に、あの当時の原油の相場の変動が地元企業に大きな利益、メリットを提供したと。それが地元還元された。そういうふうには、やはり神様って情念が束なれば、いろんな意味で救う神じゃないですけども、幸運が近づいてくるんだ。やっぱりあの当時の和木町のリーダーのような、大きな力が一点集中したようなリーダーシップが、今の時代に意味を持つかというのは、少し疑問を持ちます。

そういう意味で言いますと、小方のまちづくり全体像に市民の皆さん、地域の皆さんのエネルギー、そして我々の誠意や熱意をもった議論や構想や、そういうものが全て束なったときに、初めて実現するんじゃないかなということ、和木町の御努力のお話を伺う中で、しみじみ感じとった次第でございます。

ぜひとも、小方小学校跡地の件のみならず、岩国大竹道路の新設、小方駅の構想、また、小方の町全体がある意味じゃ大竹の将来の希望です。ぜひとも、小方駅の設立が前に進んでいくよう私も願いながら、今回の視察研修を生かしていきたいなと思っております。ありがとうございました。

○細川委員長 市長、町長の強烈なリーダーシップと職員の思いということと、視察では町

の本気度といった表現があったと思いますが、それがあってこそ、さまざまな幸運な出来事も引き寄せたんじゃないかと。といったことで、市民サイドの先ほど、日域委員が言われたような住民サイドの盛り上がりプラス、市のほうの本気度が必要じゃないかといったことだったと思います。

もう一点は、小方全体のまちづくりにかかわることという御意見でした。

日域委員。

○日域委員 例えば、この近くの請願駅といえ、和木と前空がありますよね。小方の学校の跡地があるということ考えたときに、意外にですよ、参考になるのは前空駅かなという気もするんですよ。和木の場合は、単純に行政主導ですからね。今回の場合は、何か不動産開発的な要素もそばに転がってますから。うまいぐあいにそれをひっくるめたら、前空的になるかなと思いますけどもね。そういう意味で、一体不可分な気がするんですよ。駅は駅、小方まちづくりは小方まちづくりというんじゃないかと、そこのところはね、ぜひ一緒に考えてほしいなあって思います。以上です。

○細川委員長 ありがとうございます。

ほかにございませつか。藤井委員。

○藤井委員 和木の駅のできるまでの視察に行つて、1番感じたのは、やはりトップの考え方。そして、直接JRと交渉する担当者。こういった方がずっと変わらず、窓口となつて一生懸命やつてこられたということで、そういったことが和木の住民の方々も巻き込んで、企業も巻き込んで、訴えていくということが、相手方のJRにもね、しっかり伝わつてでき上がった駅ではないかということ強く思いました。

私は、小方の新駅をつくるのに1番ネックなのは、乗降客の人数ですね。これが大体和木と同じくらいだったと思うんですが、2,000人か3,000人ぐらいのことを要求されていたと思うんです。JRの考え方の中に。それが1番難しかろうというふうに考えたんですけども。和木で話を聞いた限りは、既にJRは820人ということをもつ試算で出しておられて。にもかかわらず、和木に対しては2,500人を要求しつたというようなことを考えれば、ちよつとさつびいて考えた場合、利用客の人数的なものは余り何て言うか、ネックにはならないというふうに、私自身は考えてます。

先ほども出ましたけれども、小方地区のまちづくり基本構想事業ということで、2,400万が確保できてます。そういった中でどういふ絵を描かれて、訴えて、こついう予算がとれたのかというところがちよつと不明なんですけれども。ここを調査しながら、公園のことも、JRの駅のことも含んだ絵を描いて、進んでいつたらいいんじゃないかということをもつ全般的に見たときにはまちづくり、小方のまちづくりは、やつていつたらどうだろうかというふうに考えております。

○細川委員長 ありがとうございます。

かなり和木町の方が本音の話を、よそでは言えない本音の話をしていただきましたので、行つて本当によかつたなと思つております。今、藤井委員が言われたこと、まさにそのとおりのことを聞いてくることができ、本当に思いが共有できたよつな気がいたします。

ほかにございませつか。賀屋委員。

○賀屋委員 和木駅ができるまでの経緯とか、課題とかを、直接担当者の方からお聞きすることができたわけですが、先ほどの話もありましたように、トップの姿勢と、それをバックアップする市民の熱意、あるいは議会の姿勢。そこにあるんだろうと思います。全ては、トップが、わかったよ、じゃあやろうということであれば、こういう形で予算もすぐつくし、また次の段階へ進んでいける。それを後押しするのは、やっぱり我々であって、また、地域住民であろうかと思えます。地域住民の方から言わすと、先ほどありました、平成12年の陳情採択からもう何もしてもらえていないという諦めのムードもあって、何か言うても、何にもしちゃくれんやと。議会に採択されてもどうなつとるんやということで、かなり批判的なこともありますけども、地元は地元で、小方新駅の期成同盟会、設置期成同盟会も立ち上げて、地元での明確な方向性も具体的に出してきたと。それをあわせて考えていくと、今からこの小方まちづくり特別委員会でどういうふうな作業、どういうふうなことが必要なか、何を手順としてね、進めていくのかということになると、駅設置に向けての方向性は出たわけですから、それをいかに早く具体化をさせていくかということだろうと思います。

それは、和木を見ても、平成14年6月に和木駅設置期成同盟会総決起集会というのが、和木の文化会館で開催されて、町民全体の機運が盛り上がり、それからスピードアップしたと。それから、寄附の具体的な活動にも入っていったわけですが、そういった住民と一緒に、小方駅を進めていくという機運を高めるということが、その熱意、住民の熱意が伝わってくるんだろうというふうに思います。

当然、玖波や大竹に在住の方にとっては、小方駅ができて余り関係ないよね、そこへ大きな予算を投資してどうなんやという思いの方もあってかわからんですけども、それは今までの流れの中で、大竹全体が沈下するんじゃないし、大竹をどこから活性化していくかと言ったら、まず小中学校の跡地であるとか、晴海であるとか、こういった広大な活用できる土地を有しているのはこの小方であるし、幾らでも今から夢の持てる絵が描けていけるわけですね。そこを起爆剤として、小方がよくなれば大竹もよくなると。全体が底上げされるんだと。そのための施策なんだということで、しっかり説明もしていき、大竹全体の活性化、地方創生に向けて小方を盛り上げていくということが必要なだろうと。そのことを考えるときに、この和木で意見を参考にすると、早く機運を高めるための行動をどういうふうに具体的にすることかということ、この委員会で具体的な策の方法をね、検討していく。

あるいは、JRとの交渉も担当者一人が和木町の場合、非常に苦労して時間かかったということですから、市のJRに対しての窓口。そのあたりをちゃんと明確にして、専属の職員をつける。例えば、設置準備、小方新駅という名前が、小方新駅っていうのはわかりませんけどね。市長がこの前、亀居城駅とかいう話もね、出とったみたいですけども。駅名は別にして、新駅設置対策室とか、準備室とか、そういう市役所の中の専属の機関をつくることによって、本気度をね、内外に示していく。そうすることによって、JR側も市がそれだけ本気で事を構えればね、JRも知らん顔もできませんしね。早急なスケジュールが組んでいけるんじゃないかなと思います。

せっかくの3月の補正で組まれた、この2,400万の調査費も、小方まちづくり基本構想の中では駅の概略設計という、いわゆるどの辺に駅がきて、駅前の広場どのくらいの大きさで、それに向けてどういう道はどっからどうつくのとかね、そういったことをJRと協議しながら、その駅の位置であるとかいうのは決まってくるはずなんで、早速この業務委託を発注したら、JRとの協議が、具体的な協議が進んでいくわけですね。概略、じゃあこういう駅の形で、構造的なものは詳細をせないけませんけども、今の軌道の高さで現道の高さで、駅としたら大体こういう形になるんじゃないんですかというような話ぐらいまでは、この概略設計でやられるはずなんで、その中でちゃんとJR側との交渉窓口というのをはっきり明確にさせておくという、そのことが大事であって、そういった意味で、市の態勢としてもね、先ほど言いましたように、特別なこのセクションを設けて態勢づくりをしていく。そんなことを、例えばこの委員会から市のほうにしっかりお願いをしていくとか、そういう具体的に次に何をするのかということ、しっかり今、協議をしながら進めていくべきだと思うんです。2年後でないと、この結論はまとめられません、発表できませんと言ったんじゃないかね、全然ずれてずれて話にならないのではないかと思います。そのくらいやっぱりスピード感を持った対応をしていく必要があるんじゃないかというふうに感じました。以上です。

○細川委員長 今後の取り組みへの提案も含めての御発言いただきました。

ほかございませんか。山本委員。

○山本委員 私が一番感じたのはね、JRの経営体質がね、地域の皆さんの要望に応える上での何て言いますかね、誠意が余りにもないということを非常に感じましたね。それで、国鉄が民営化されてから国の法律の下でね、JRの土地とか施設とか固定資産税免除にしとるんですよ。だから、JRが企業体だといっても、公共機関としての位置づけをしてるんですからね。地方自治体の町のありようや、将来的な発展を目指す上での駅の新設を願う場合には、それなりの誠意ある対応をするのが、これが筋や思うんですが、なかなかそうはいかんよね。この年数的に見てもあなた、こんなにね、時間をかけて協議して、苦勞せならんようなね、相手がどこにおるか思うんよね。日本でこのJRだけですよ。そういうことを非常に感じました。

だからといって、巨大な組織やからね、JRの本来的な体質をわしがここで幾ら言っただって、そう簡単に直るもんでもなからうしね。これは国のほうで、やっぱり公共機関としての性格を持たせているんですから、ちゃんとした法的な網をかぶせて、沿線の自治体のまちづくりに対応する、正義ある姿勢を持たせるようにやっぱり考えてもらいたいと思うんですよ。それは一つです。

それで、先ほど来、各委員の皆さんがおっしゃるように、私も同じような和木町の御苦勞なりね、事務員の皆さんの熱意ある取り組みなり、共通してそういう印象を受けまして、随分苦勞なさったんだと、こういうふうに思っております。

それで、大竹もこの小方といえば、巨大な企業もあるし、商業施設もあるし、そういう企業や商業施設の皆さんとも声を合わせて上げられるような、やっぱり組織を早くつくってね、取り組むべきじゃないかと思うんです。これは、名称が期成同盟になるか、実行

委員会になるかそこはわかりませんが。ただ、地域の住民ということでなしに、もっと枠を広げて、ほとんどJR利用されるいう場合は、企業にお勤めの皆さんとかね、この商業施設にお勤めの皆さんの利用もそらあるわけですからね。ただ消費者の動向による利用だけでなしに。だからやっぱり、地元のそういう関係機関なり団体なり、組織なり挙げて取り組むように、ぜひ入山市長が大いに旗を振ってね、頑張ってもらうことが大事なんじゃないかというふうに、私は感じました。

○細川委員長 田中委員。

○田中委員 私は、端的に申し上げたいと思います。和木のほうに行かせていただいて、いろんな苦労話も聞きました。ともかくやる気があれば、やる気があればできると。やる気があるところに知恵が出てくるし、また、サプライズも起こったという話を聞きました。いかにして、この小方のですね、150軒立ち退いて、大変な多大な迷惑かけて、そして要望事項の中にもあります、総合計画の中にも小方駅の設置もうたってあります。制度面ももうできていると思います。そういった面で、知恵を結集して、前向きに力を合わせていくというこの方向を確かめられたんではないかなというふうに、私は感じました。また、これからもそういう方向に向けて、頑張っていきたいと思っております。

○細川委員長 ありがとうございます。全員御意見いただきましたが、言い足りないことがありますか。大丈夫ですか。

済みません、もうしばらく。12時過ぎましたが。

ただいま、今後じゃあ何をやっていくのかということなんですけども、幾つかの御提案もありました。日域委員からは、他の駅も参考にすべきではないかといった御意見ありました。私も和木に行って思ったんですけどね、できてから大分時間がたっているんで、JRの姿勢も変わっている可能性がありますよといったお話をいただきましたのでね。もう少し直近のできた駅の話聞くというのもね。和木駅だけを参考にして突っ走ったら、状況が変わってきた部分もあると思いますのでね、そこをもう少し聞いてみるというのも一つ。

それともう一つは、何といても、地元の機運をどうやって盛り上げていったらいいかというのを、少しアイデアも出していければと思うんですけども。

いかがでしょうか。賀屋委員。

○賀屋委員 先ほど、地元の機運の盛り上げ方という話もしましたけども、以前にも話しましたように、小方のまちづくりをテーマに、いわゆるシンポジウムなり、そういった市民や企業、関係機関、そういった方を招いて、皆さんの意見交換会をそのシンポジウムという形の中でやっていく。そのテーマの中には、当然小方駅ということも出てきますので、小方駅とその周辺のまちづくりということに絞られてくると思います。

そうすると、駅が先か、そういった小中学校跡地の活用がどういう活用が先なのかということになるかもしれませんが、これは同時並行しながら、やっていく必要があるんで、そのことを逆に言えば、この中だけでの議論でなしに、市民の声、関係者の声をしっかり聞いて、賛同を得ながら同じ方向へ向かっていくということが、1番の早道ではないかというふうに思いますし、その中でじゃあ新駅を活用して、大竹と同じような立地にあ

る町ですよ。そこで新駅を活用したまちづくりが成功した例、あるいは失敗しましたねという例あるかもわかりませんが、そういうところを視察に行くのであれば、どういう駅と一体になったまちづくりをしたら成功するのかという、また、失敗するのかというそういう事例を視察に行きましょと、意見を聞きに行きましょということならいいと思うんですけど。駅自体の作り方とか、こんな駅ですよとか、これくらいかかりましたよねというのはね、余りこの場所にそれぞれの駅の条件によって違いますので、一概にこの駅は高かったとか、ここは安かったとか言っても、ここ小方にその駅、その構造的なものを当てはめたって同じことにはなりませんので、駅自体のどうこうというのは、余り視察に行っても、聞いても、当てはまらない部分が多いんじゃないかと思います。

ということで、逆に駅を中心にどういうまちづくりをして、結果、乗降客がこのくらいふえましたと。こういうものを持ってきました、行政としてこういう計画をつくりましたとかですね。そのことによってまちづくりが成功したということ、参考になるようなところがあればね、そこに行っているいろんな知恵をかりるとするのは、いいんじゃないかなというふうに思います。以上です。

○細川委員長 ありがとうございます。本特別委員会、大体月に1回くらいのペースでやっていきたいと思いますという話がありますが、今回、和木駅の視察、和木町への調査が終わりまして、次、何やっていこうかなんですけれども。ただいま、賀屋委員のほうからも御提案がありましたように、一つは、駅をどこかまだ見に行つて調査する必要があるんじゃないかということで、どこへ、皆様のお考えの中で調査の対象にしたらいいかという。

もう一つは、地域から機運を盛り上げていくために、賀屋委員は今、シンポジウムという具体的な言葉もありましたが、違う考え方もあると思います。どうやって、大竹市全体で駅に向かって機運を盛り上げていくかというそれが2点目。

あと三つ目は、執行部のほうへの情報提供ですね。今回の小方駅も含めたまちづくり構想の中で情報提供いただけるものがあるようであれば、それも聞きながら進めていくというね、この3点で次回やってみたらどうかと思っております。

皆様には、だから調査対象となる駅の提案、それと、機運づくりですね。委員会として、どういったことを取り組んだら小方駅に向けての機運づくりができるのかという2点を提案をお願いしたいと思います。できたら4月に、終わりぐらいですかね。日程的には議会報告会もあります、4月の下旬ぐらいに、そういった今言った三つのテーマで、再度まちづくり委員会を開かせていただきたいと思いますが、宿題を今二つ出しましたが、いかがでしょうか。

○日域委員 答えを言ってもいいですか。

○細川委員長 いや、答えはいいです。

○日域委員 要するに、今の議論って、物すごく次元が低いんですよ。あのくらいのことをやってもですよ、実際前に進みませんから。和木のあのデータをどう読むかっていうことありましたよね。あのときの費用は4億円でしたよ。その4億円をどこから出すかですけどね、大竹駅のあとが小方よねと言つたら一と先になります。その間、あそこの学校の跡地を置いておくかって、それもできない。だから、あれを早く何とかしたい。か

とって、市の財政考えたときに、どこまでできるかってなるじゃないですか。そしたら、市じゃなくて、前空方式のほうがね、早いんじゃないかなという気もするんですよね。お金のひねり出し方ですよ。業者をかますんですよ。そういうことも考えずにね、市長がやる気になったって、私は期待してませんよ。正直言って。そんなリーダーシップがある市長じゃありませんから。

だから、もうちょっときちっと設計図をつくって、そしたら機運が盛り上がりますよ。あいつら言いよるけどできんやって、地元の人だってだめっていうのはいっぱいいるわけですからね。こうやったらできるんやろうかと思わせて、あんたらよう考えたなったら、盛り上がりますよ。問題はそのプログラムの組み方です。

もし、それができなかつたら、やめたほうがいいと思います。できもしないものをいつまでもですよ、思ってもしょうがないですからね。やるんだったら、具体的なつめ方を考えたらいいじゃないですか。私もわかりませんよ。だから、聞きにくるんですよ。

○細川委員長 じゃあ、前空に行きますか。

○日域委員 行きたいです。ぜひ。藤和不動産でもいいですよ。

○細川委員長 今、具体的に次は前空に行こうという提案がございましたが。ちょっと日程は相手のこともありますので、決めれないと思いますが。前空駅の設置に関する。前空いつでしたっけ、できたの。もうかなり古いですよ。賀屋委員。

○賀屋委員 そうですね、前空は今藤和不動産の話も出ましたけども、裏の住宅開発にあわせて駅の設置ということで、民間企業のほうが地元負担分を出されたということで、そういった開発をセットでの駅の請願ということでいけば、一つのいい例であると思います。

この大竹、小方の小中学校の跡地を住宅がいいのか、あるいは商業施設とか、ほかのいわゆる、もっと幅を広げた町の活性化のための用地として活用するのかということになってきたときに、例えば住宅にしたときには面積的にも戸数が限られてくるというふうに思うんですけども。逆に、もっと商業施設とほかのいろんなものを入れた複合ビルをそこへぼんと持ってきて、いわゆる都市開発をそこでしていくということであれば、かなりの面積的なメリットもありますし、そういうことを含めた住宅地だけでない開発の成功事例。それもこの小方といいますか、広島であるとか、岩国であるとか、どちらかという、広島といわゆる通勤圏域にあるわけなんで。そういった大都市から例えば30キロとか、そういったところでの大竹市と似通ったような人口規模、財政規模、そういったところに請願駅をつくり、またそういう開発をしていった事例というところをね、同じような規模、同じような条件のところを探してみるというのが、もう一つの手じゃないかなというふうに思います。

前空が悪いって言うんじゃないですよ。前空は、さっき言いましたように住宅開発によって、あれを請願したということですが。それをそのままはめても、こういうふうに住宅地としてそれだけの容量があるかということ、なかなか厳しいだろうと。ということになると、平面的なものだけじゃなしに上に向けて、そういう開発をして誘致に成功したような事例、そういった請願駅。この広島からの距離的なことを考えたら、同じような条件の町を探して、視察に行くというのもありじゃないかなというふうに思います。

○細川委員長 事務局、済みません。視察に行く場合、どの辺まで予算的に可能でしょうか。前回は、近くでということと和木にしましたが、日帰りで行って来るところしかいけないとか、どの辺までが可能か。局長。

○福重議会事務局長 特別委員会として、視察の旅費というか、それは組んであるので。どれぐらいというのが難しいんですが、とりあえず候補を出していただければ予算はあると思いますので。

○細川委員長 旅費規程に基づいた中ではオーケーと。大体、常任委員会で先進地に調査に行くぐらいの距離なら、オーケーというふうな考えとって大丈夫でしょうかね。賀屋委員。

○賀屋委員 以前ちょっといろいろ情報収集する中で、九州に、福岡の近くに福岡という大都市の周辺の、いわゆるベッドタウンでもないところなんです、そういうところに前後して、いわゆる請願駅をつくったというような事例があって、そこは駅の前も商業施設が張りついたり、いろんな発展を遂げているところがあるというふう聞いております。福岡ぐらいだったら、日帰りでも行こう思ったら行けるよね。そんな情報もあります。

○細川委員長 行き先については、また可能な範囲の中でということ、事務局と相談させていただきますので。調査対象の駅と、その内容ですね。これこれこういうことを調査してきたということも含めて、皆様から御提案をお願いしたいと思います。それをもとに、次に行き先決める、また、駅への機運を高めるということもね、考えていきたいと思っております。

次回は、日程まだ決まりませんが、4月の終わりぐらいということで進めてまいりたいと思います。よろしいでしょうか。

では、きょうは以上で終わります。お疲れさまでした。

12時18分 閉会